

7 凍結による破損の予防及び 長期間使わないときの処置

凍結が予想されるときや長期間使わないときは、次の凍結予防の処置を行ってください。

凍結が予想される時

- ◎ 製品が凍結すると機器が破損し水漏れの原因となります。
- ◎ 凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。
凍結のおそれがある場合は、トイレ内は暖房などをして周囲の温度が凍結予防限界温度以下にならないようにしてください。

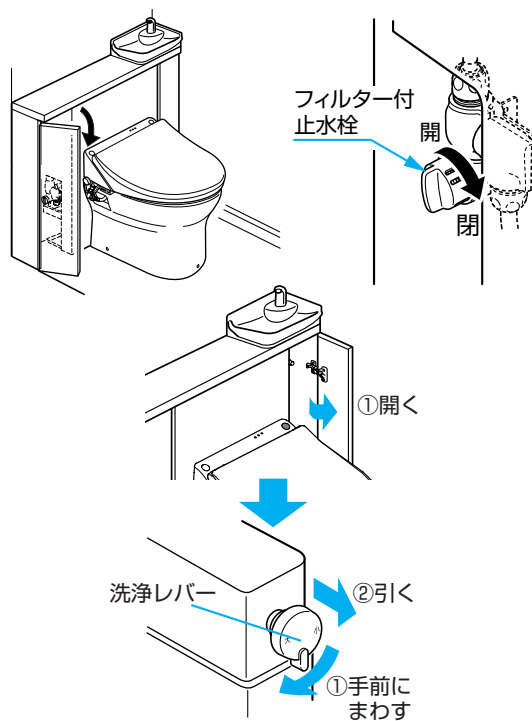
〈大便器・ロータンク部〉

●大便器・ロータンク部の凍結予防限界温度は、下表の通りです。

水抜方式（室内暖房併用）	0℃
水抜方式（ヒーター付便器併用）	-15℃
流動方式	-10℃

■水を抜く場合（水抜方式）

■事前に、水抜栓（他社製品）または大便器キャビネット内の止水栓を操作し、給水を止めてください。



- ① キャビネット右扉を開ける。
(扉を押すと開きます)
- ② タンクヒーター用プラグ・便器ヒーター用プラグ（ヒーター付便器の場合）を、キャビネット内下方にあるコンセントに差し込む。
- ③ キャビネット内上方にある洗浄レバーを、手前側（矢印の方向）いっぱい回したまま外側に引くと、レバーがロックされ、タンク内の水が大便器に抜ける。

水抜き後の再通水

再び使用する前には洗浄レバーを内側に押し込んで下向きにし、水抜栓（他社製品）または大便器キャビネット内の止水栓を操作して通水状態にする。

■水を流し続ける場合（流動方式）



- ① キャビネット左扉を開ける。
- ② タンク左横に取付けてある流動金具のハンドルを全開にする。
- ③ 便ふたを閉めておく。
※便ふたを閉めない場合、便器に氷がはり、1回の洗浄で氷が流れていかない場合があります。

〈ウォシュレット部〉

- ウォシュレット部の凍結予防限界温度は0℃です。

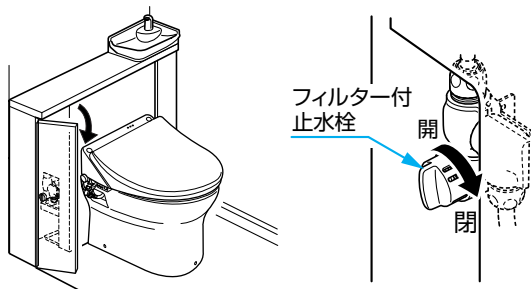
ご注意ください！

- 凍結予防の作業前には、**オート機能** 入切 ふた開閉 **オート機能** 入切 流す を「切」にして、便座・便ふたを閉めた状態にしてください。
- 節電はしないでください。凍結により製品が破損することがあります。節電機能の解除のしかたについては、ウォシュレット付属の取扱説明書をご参照ください。

■水抜きのかた

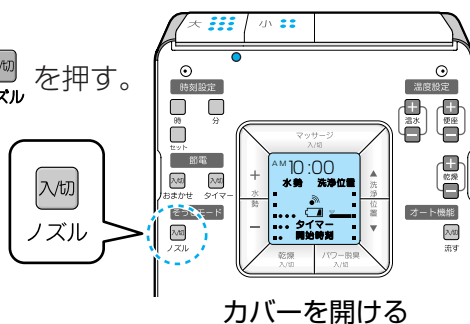
1 給水を止める

水抜き栓（他社製品）または大便器キャビネット内の止水栓を操作して給水を止める

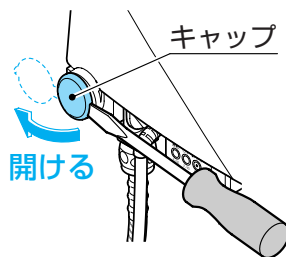


2 配管の水を抜く

- ① リモコンのカバーを開けて **そうじモード** 入切 ノズル を押す。
(ウォシュレット内部の残水を抜きます。)



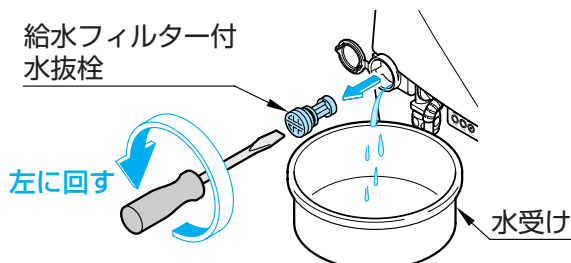
- ② キャップ（灰色）を⊖ドライバーで開ける。



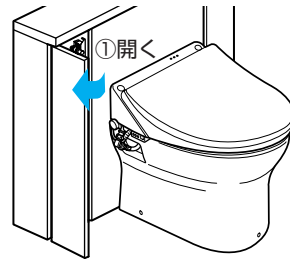
- ③ 給水フィルター付水抜き栓を⊖ドライバーでゆるめた後、引っ張ってはまず。

注意

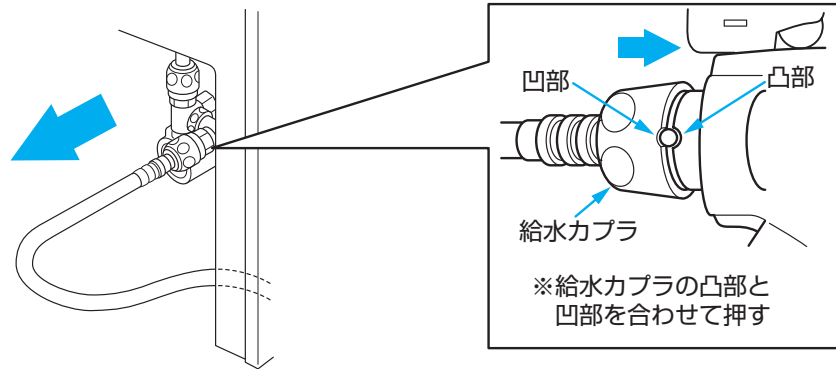
禁止 止水栓を開けたままで給水フィルター付水抜き栓をはずさない
●水が噴出します。



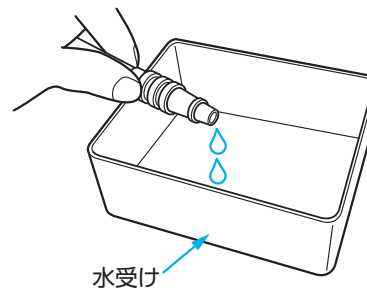
- ④ キャビネットの左扉を開ける。



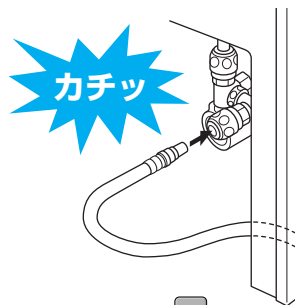
- ⑤ 分岐金具からウォシュレット給水ホースを抜く。



- ⑥ 水受けでウォシュレット給水ホース内の水を受け止め、ホース内の水を抜く。



- ⑦ 再びウォシュレット給水ホースを給水カプラにつなぐ。



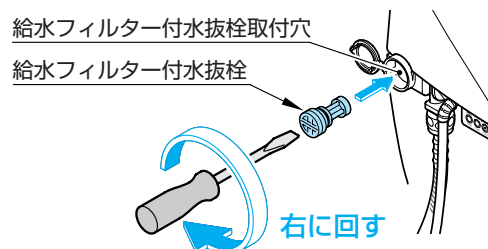
△ 注意

! カチッと音がするまで
きっちりと差し込む
● 漏水のため家財に損害を
与えるおそれがあります。

必ず守る

- ⑧ もう一度 **そうじモード** 入切 ノズル を押す。
(ノズルを元に戻します)

- ⑨ 給水フィルター付水抜栓を押し込み、⊖ドライバーで確実に締める。




△ 注意

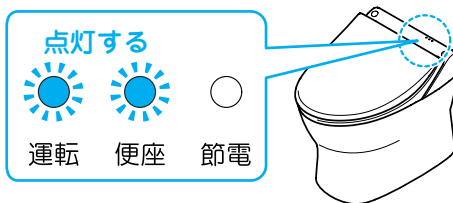
! 給水フィルター付止水栓
は確実に締める
● 確実に締めないと水漏れ
の原因になります。

必ず守る

- ⑩ キャップ (灰色) とリモコンのカバーを閉める。

3 ウォシュレット内を保温する

① ウォシュレット本体の  が「入」であることを確認し、リモコンの便座温度設定を「高」にする。



② 便ふたを閉める。

<手洗器部>

- 手洗器部の凍結予防限界温度は、右表の通りです。
- 自動水栓の場合、水抜きや水を流し続けることができませんので、トイレ内の暖房などをして周囲の温度が氷点下以下にならないようにしてください。

水抜方式	0℃
流動方式	-10℃

■水を抜く場合（水抜方式）

■事前に、手洗器給水管用の水抜栓（他社製品）を排水（水抜）側に切替えてください。

- ① 水栓のハンドルを開にする。
- ② 水を抜き終わったら、水栓ハンドルを閉める。



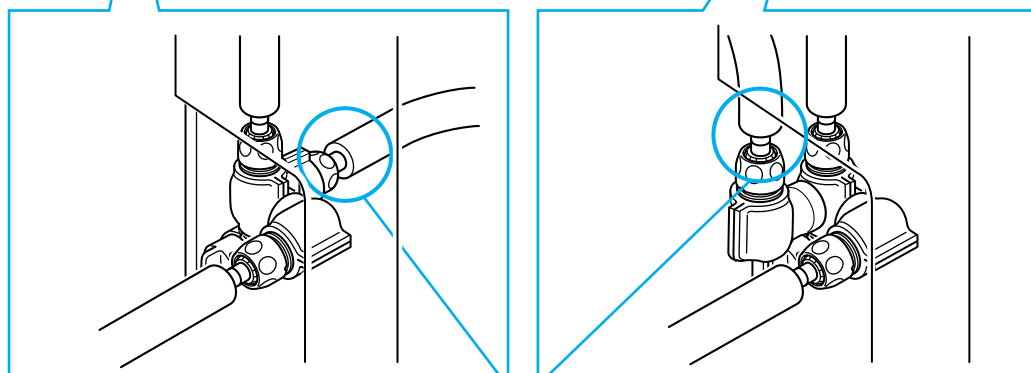
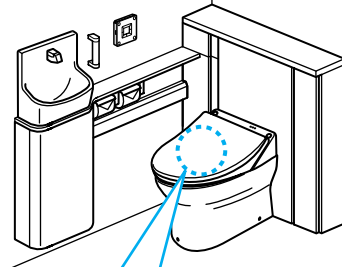
水抜き後の再通水

※再通水した際にハンドル式水栓の水が出ないときは、キャビネット左扉をあけてホースと給水カプラの連結部をお湯に浸した布であたためてください。

<L型右勝手の場合>



<L型左勝手の場合>



ここを温めて下さい。

■水を流し続ける場合（流動方式）

水栓ハンドルを開にして、少量の水を流し続けてください。

アドバイス 1

【水抜きをしましょう!】

- 冬季に帰省されるとき
- 別荘などで使用される
るとき

冬季の留守のときは冷え込みが厳しくなります。凍結予防のために、必ず水抜きをしてください。

長期間使わないときの処置

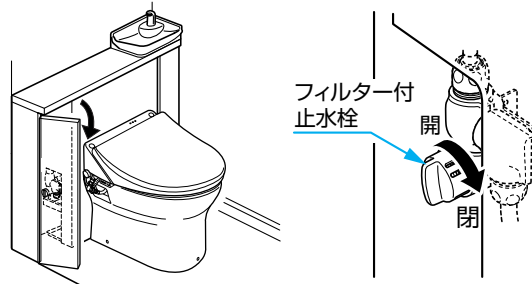
水が腐敗して皮膚の炎症などを起こす原因になります。
また、製品が破損するおそれがありますので水抜きを行ってください。

アドバイス 1

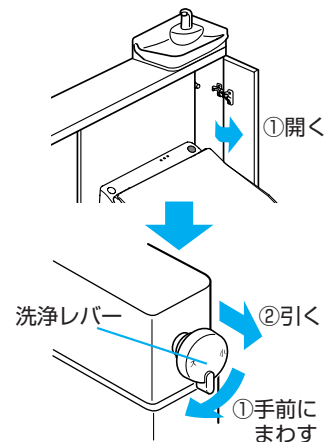
〈大便器・ロータンク部〉

■ 水抜きのしかた

■ 事前に、水抜栓（他社製品）または大便器キャビネット内の止水栓を操作し、給水を止めてください。



- ① キャビネット右扉を開ける。
(扉を押すと開きます)
- ② タンクヒーター用プラグ・便器ヒーター用プラグ
(ヒーター付便器の場合)を、キャビネット内下方
にあるコンセントから抜く
- ③ キャビネット内上方にある洗浄レバーを、手前側
(矢印の方向)いっぱい回したまま外側に引くと、レ
バーがロックされ、タンク内の水が大便器に抜ける。
- ④ 便器に不凍液を入れる。



〈ウォシュレット部〉

■ 水抜きのしかた

1 給水を止める

👉 凍結が予想される時 <ウォシュレット部>
水抜きのしかた 1 給水を止める 23ページ

2 配管の水を抜く

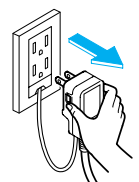
👉 凍結が予想される時 <ウォシュレット部>
水抜きのしかた 2 配管の水を抜く 23ページ

3 ウォシュレット本体を取りはずす

- ① ウォシュレットの電源プラグを抜く。

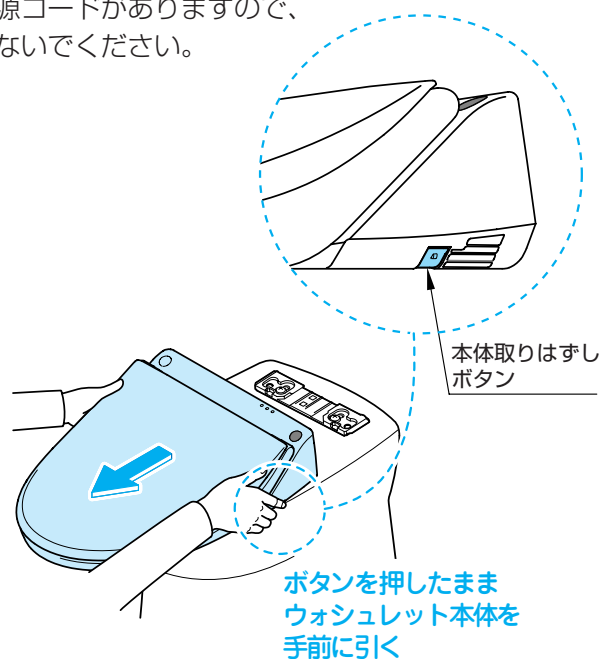
※ウォシュレット本体を取りはずす前に安全のため電源プラグを抜いてください。

また、抜いた電源プラグに水がかからないようにしてください。
(👉 電源プラグの確認 8ページ)



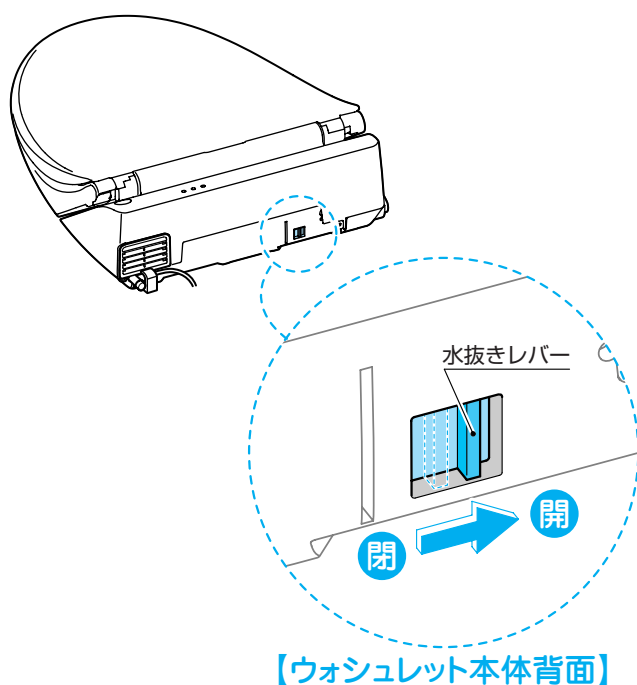
- ② ウォシュレット本体右側の本体取りはずしボタンを押したまま、本体を手前に引く。

※給水ホース・電源コードがありますので、無理に引っ張らないでください。



4 ウォシュレット本体内の水を抜く

- ① 水抜きレバーを「開」位置にしてウォシュレット本体内の水を抜く。
- ウォシュレット本体下側から水（約40ml）が便器内に出ます。水が完全に抜けるまで約15秒かかります。
 - 水抜きレバーを押している途中にノズルが自動で出てきます。ノズルの穴から少量の水が出て、約30秒後に自動で戻ります。
- ※ウォシュレット本体下側および、ノズルの穴から出る水が便器内に落ちるようにしてください。



- ② 手を離し水抜きレバーを「閉」の位置に戻す。

5 ウォシュレット本体を取り付ける

- 1 ウォシュレット本体の中心とベースプレートの中心を合わせる。
- 2 便器面にウォシュレット本体をすべらせて「カチッ」と音がするまで、確実に押し込む。
※ウォシュレット本体をベースプレートに確実に押し込まないとウォシュレットは作動しません。
※引き出したコードやホースをキャビネット内におさめる際に、折れないように注意してください。



[6] お手入れのしかた ⑧ 大便器とウォシュレットのすき間のお手入れ 19ページ

6 電源プラグを抜く

電源プラグの確認 8ページ

水抜き後に再通水するとき

- 1 止水栓を開ける。 止水栓の確認 8ページ
- 2 電源プラグをコンセントに差し込む。 電源プラグの確認 8ページ
- 3 ノズルから吐水させる。

着座センサーを白紙でおおい、リモコンの を押してノズルから約2分間吐水させる。

〔 残水が凍結し水が出ないときは、トイレ内をあたため、お湯を浸した布で給水ホースおよび止水栓をあたためてください。 〕

〈手洗器部〉

■ 水抜きのしかた

※自動水栓の場合、水抜きは出来ません。


■ 事前に、手洗器給水管用の水抜栓（他社製品）を排水（水抜）側に切替えてください。（水抜方式の場合）

- 1 水栓ハンドルを開にする。
- 2 水を抜き終わったら、水栓ハンドルを閉める。
- 3 手洗器の排水トラップに不凍液を入れる。



8 定期点検の おすすめ

■漏水などの事故を未然に防ぐために、定期的に以下の点検を行ってください。



定期的に、キャビネット扉を開け、配管の周り（キャビネット内）を見て、水漏れがないか確認してください。
（部品の劣化、摩耗などによる漏水が発見できず、家財などを濡らすおそれがあります。）

フィルター付止水栓

×

スパウト
グラグラ

禁止

手洗器にセットされているスパウトの固定がゆるんだまま使用しない。
（L型のみ）


- スパウトの固定がゆるんだまま使用すると漏水の原因となります。

漏水や、水栓のゆるみを発見された場合には、15ページの要領（フィルターの掃除）でフィルター付止水栓を止め、お取付け工事店、販売店またはTOTOメンテナンス（株）修理受付センター フリーダイヤル 0120-1010-05に修理を依頼してください。

〈フィルターの詰まり〉

点検の目安：1回／半年

◎ フィルターが詰まると、タンクへ水を溜める時間が長くなったり、手洗器の吐水量が少なくなったりします。

その際は、フィルターの掃除を行ってください。  15ページ